

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～日本の構造問題、シンクタンクの景気見通し、たばこの値上げの影響などを分析しています。

2010/9/3 「家計貯蓄率低下局面における財政政策について～今後は財政再建に向けた取り組みが求められる～」

2010/9/1 「雇用構造と労働生産性の変化～もとめられる労働の再配分効果を高める政策～」

2010/8/19 「民間調査機関の経済見通し（2010年8月）～消費を中心に内需の下方修正が目立つ～」

2010/8/13 「たばこ値上げと駆け込み需要～過去の例では+0.2～+0.3%ポイントの駆け込みと▲0.5%ポイント程度の反動減～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～急速に進んだ円高の背景と先行きを探ります。

2010/8/13 「円相場を取り巻く環境と歴史～欧米が通貨安を望まなくなるまで混乱は続く可能性～」

掲載カテゴリ：嵩峰義清の「マーケットウォッチング」

～日銀のとった円高局面での対応について分析しています。

2010/8/30 「臨時会合で固定金利オペ6か月物を導入～政府の経済政策との連携重視～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～日本の特異な貿易構造に起因するGDPとGDIの乖離について分析と提言をしています。

2010/9/1 「景気の実感はGDPではなくGDIにあり～求められるGDIをベースとしたGDIギャップの計測～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～再び景気減速の兆候が見え始めた欧米経済、注目の新興国経済について解説しています。

2010/8/27 「欧州の財政不安が再燃～やはり終わっていなかった欧州の財政リスク～」

2010/8/20 「アジア（中国・インド・NIEs・ASEAN5）短・中期経済見通し（2010年8月版）～年後半にかけて調整圧力は高まるものの、緩やかな拡大基調に変わりはない～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

先般ギリシャ国債が市場で売り込まれた時のこと。本国やEUがいくら平静を装っても、ひとたび信用不安が火を噴いた後は、市場が納得するまで対応策を打ち続けなければならなかった。それを見越して圧力をかけるように先に相場が下がり始めるという、一種の「催促相場」は他の市場でもしばしば見られる。

かたや通貨高が止まらない国もある。経済が二十年間停滞し、物価下落は十年以上。物価上昇しない国の通貨は価値が上がる、金融緩和の余地がなく実質金利が高い、と理屈がついて通貨が買われる。通貨高メリットもあるが、現状悪影響を相殺することはできない。にもかかわらず、通貨高と政策は息が合いにくい。

経済を強くするビジョンもまだはっきり定まっていななかで、景気と密接にからむ通貨高に関心が低いと見られることが、為替市場で投機の思惑を生むことは否定できない。対応を先延ばして、やがて耐えられなくなって收拾に走るような対象は市場では狙われやすい。こんな原稿を書いているうちに、為替介入にまで追い込まれてしまった。もう少し早く「デフレ下での円高は困る」と声に出せなかつたらどうか。（H. U）